

❖ 講演会・研究セミナー ❖

[パネル展示]

仏教と災禍・病苦の近代史（解説）

2023年6月26日（月）17:15～18:45

オンライン開催（Google Meet）



中西 氏（上）、パネル展示の様子（下）

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

2023年6月23日(金)～7月11日(火)、龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門の常設研究班「仏教史・真宗史総合研究班」(代表:文学部歴史学科 中西 直樹教授)主催、写真パネル展示「仏教と災禍・病苦の近代史」が、龍谷大学大宮学舎 東翼1階ロビーにて開催された。展示では、明治から戦前期までの災禍・病苦に際して、仏教者による対応と実態を、写真や史料約70点をパネル22枚に添えて解説を行った。

併せて、企画構成・執筆をすべて担った中西氏による解説セミナーが、6月26日(月)にオンラインで行われた。司会は近藤俊太郎氏(龍谷大学非常勤講師)が担当した。

中西氏によると、仏教は、生老病死という人間の苦の問題を深く見つめ、それを乗り越えていく道を目指すものである。科学・医療技術が急速に進展した反面、環境・生命倫理に関わる新たな問題を生起した近代において、仏教者は、罹災者への救援・支援活動だけでなく、感染症予防、看護師養成、保険、医療倫理構築、慈善病院設立など、幅広い領域での取り組みを展開してきた。このことは、今日われわれが直面する諸課題への対応を考える意味でも、何かの指針を与えてくれるに違いないという。

そして、関東大震災から100年、この節目の年に、近代における仏教者の災禍・病苦への対応に焦点を当て、その実態の歴史を紹介するパネル展示を行うことにより、改めて先人たちの苦難のあゆみを知り、思いを寄せるとともに、災禍・病苦にどう取り組むべきかを仏教に学び考える機会になれば、と中西氏は語った。

パネル展示の内容は以下の通りである。

- (1) 京都療病院の設立(明治5年)
- (2) 感染症対策と仏教教化(明治10年代)
- (3) 講社・施薬院の活動(明治10・20年代)
- (4) 濃尾大地震(明治24年)
- (5) 仏教主義看病婦学校(明治30年前後)
- (6) 仏教系保険会社の設立(明治30年前後)
- (7) 箒川列車転覆事故(明治32年)
- (8) 大日本仏教慈善会財団(明治34年)
- (9) 『仰臥三年』の衝撃(明治36年)
- (10) 東北飢饉と仏教児童施設(明治38年)

- (11) 仏教主義慈善病院①濟世病院（明治 42 年）
- (12) 仏教主義慈善病院②浅草救護所（明治 43 年）
- (13) 仏教主義慈善病院③早稲田病院（明治 44 年）
- (14) 関東大震災（大正 12 年）
- (15) 九條武子とあそか病院開院（昭和 5 年）
- (16) 室戸台風（昭和 9 年）